

薬 劑 部

1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	6人（5人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	22人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	33人

2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（3編）
そのインパクトファクターの合計	5.22
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	6編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	12編（12編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	4編（4編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	5.22

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 宮本康敬，鈴木吉成，堀雄史，山本祐里，後藤実穂，山本知広，渡邊進士，田中達郎，大西一功，川上純一：外来がん化学療法支援システムの構築と薬剤師の役割．外来注射オーダー未

導入時のレジメン管理. 日病薬誌 43: 1222-1226, 2007.

2. 村松英彰, 石川仁子, 名倉理教, 堀井俊伸: 種々の方法で測定した2003年~2004年の臨床分離株のホスホマイシンに対する感受性成績の比較. Jpn J Antibiotics 60: 107-124, 2007.
3. Mino Y, Naito T, Matsushita T, Kagawa Y, Kawakami J: Simultaneous determination of mycophenolic acid and its glucuronides in human plasma using isocratic ion pair high-performance liquid chromatography. J Pharm Biomed Anal 46: 603-608, 2008.

インパクトファクターの小計 [2.03]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 堀雄史, 窪田佳代子, 三村泰彦, 足立伊佐雄, 川上純一: 肺がん患者における塩酸アムルビシン化学療法による副作用の解析: 化学療法ワークシート作成の試み. 医療薬学 34: 95-102, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Shibata Y, Fujii M, Kokudai M, Noda S, Okada H, Kondoh M, Watanabe Y: Effect of characteristics of compounds on maintenance of an amorphous state in solid dispersion with crospovidone. J Pharm Sci 96: 1537-1547, 2007.
2. Yamaguchi I, Ichikawa T, Nakao K, Hamasaki K, Hirano K, Eguchi S, Takatsuki M, Kawasita Y, Kanematsu T, Eguchi K: Cerebellar ataxia in a patient receiving calcineurin inhibitors after living donor liver transplantation: a case report. Transplant Proc 39: 3495-3497, 2007.

インパクトファクターの小計 [3.19]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Mino Y, Naito T, Matsushita T, Hirano K, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of *UGT2B7*2* on trough concentrations of mycophenolic acid and its acyl glucuronide in Japanese stable renal transplant recipients. Drug Metab Rev 39: 265-266, 2007.
2. 高科嘉章, 内藤隆文, 大村知広, 見野靖晃, 賀川義之, 川上純一: 癌性疼痛患者におけるフェンタニルの体内動態に及ぼすパッチからの放出量とCYP3A5遺伝子多型の影響. 臨床薬理 38: S183, 2007.
3. 見野靖晃, 内藤隆文, 松下朋未, 平野公美, 大塚篤史, 牛山知己, 大園誠一郎, 賀川義之, 川上純一: 腎移植患者におけるミコフェノール酸アシルグルクロン酸抱合体の体内動態に及ぼすUGT2B7遺伝子多型の影響. 臨床薬理 38: S239, 2007.
4. 石代真貴子, 乾直輝, 竹内和彦, 浅井正嘉, 影山美智代, 乙部恵美子, 内田信也, 山田静雄, 川上純一, 賀川義之, 渡邊裕司: CYP3A4活性に及ぼすスタチンの影響. 臨床薬理 38: S246, 2007.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 高井伸彦, 木村路子, 乙部恵美子, 後藤かな子, 齊藤葉子, 勝又美由紀, 立花弘子, 可知茂男, 久米ひさ子, 古田隆久, 川上純一, 梅村和夫, 渡邊裕司: 治験のスピード化に向けた今後の課題. 臨床薬理 38: S224, 2007.
2. 木山由実, 高井伸彦, 橋本直美, 乙部恵美子, 赤堀陽子, 豊田宜子, 木村路子, 齊藤葉子, 後藤かな子, 勝又美由紀, 立花弘子, 久米ひさ子, 可知茂男, 近藤一直, 古田隆久, 渡邊裕司, 梅村和夫: 質の高い, 効率的な治験実施を目指して～病院内CRCと専門施設CRCとの連携. 臨床薬理 38: S229, 2007.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 久保野尚子, 川上純一: 疾患・治療の情報: 診療ガイドライン. 新人薬剤師のための現場で役立つ情報収集・活用術. 月刊薬事 49: 505-510, 2007.
2. 内藤隆文, 川上純一: 感染性疾患: 非ステロイド性抗炎症薬, 鎮痛薬, 解熱薬. 増刊号: 病気と薬の説明ガイド2007. 薬局 58: 1650-1660, 2007.
3. 川上純一: 薬学を学ぶ方々へ. 薬事新報 2487: 875-876, 2007.
4. 内藤隆文, 川上純一: ミコフェノール酸モフェチルのPKプロファイルに影響するSNPs: ミコフェノール酸モフェチルのTDM. 今日の移植 20: 496-500, 2007.
5. 川上純一: 国際薬学連合 (FIP) 第67回北京大会に参加して. 日病薬誌 43: 1575-1577, 2007.
6. 川上純一: 国際薬学連合 (FIP) 第67回北京大会出席報告. 薬事日報 10436: 22, 2007.
7. 川上純一: ジェネリック医薬品の臨床研究のシステマティックレビュー: エビデンスをつくる意義と方法論. 薬理と治療 35: 1041-1046, 2007.
8. 村松英彰: 平成19年度・国公立大学病院薬剤部職員研修: 専門薬剤師の充実 (感染制御). 薬事新報 2482: 761-766, 2007.
9. 川上純一: ジェネリック医薬品の現状と今後. 浜松医科大学医学部附属病院さわやか通信 4: 2, 2007.
10. 山川花朱美, 堀雄史, 川上純一: 定期的な臨床検査が必要な医薬品の薬剤管理指導のポイント. 薬物治療の安全を高める薬剤管理指導のポイント. 月刊薬事 50: 87-94, 2008.
11. 川上純一, 赤瀬朋秀, 恩田光子, 草間真紀子, 佐藤博, 林昌洋, 福田敬: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討, 学術委員会学術第9小委員会. 日本病院薬剤師会雑誌 44: 34-38, 2008.
12. 宮本康敬: がん専門薬剤師研修生を受け入れて. 静岡県病院薬剤師会会報 57: 30-34, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一 (分担執筆): ケーススタディから学ぶ医療政策: エビデンスからポリシーメーカー

グへ、津谷喜一郎、渡邊裕司編、ライフサイエンス出版、東京、2007.

2. 内藤隆文, 川上純一: ピルメノール, アミオダロン, 櫻林郁之介, 熊坂一成監修, 最新臨床検査項目辞典, 医歯薬出版, 東京, 2008, p. 341-343.
3. 村松英彰, 川上純一: バンコマイシン, アルベカシン, テイコプラニン, 櫻林郁之介, 熊坂一成監修, 最新臨床検査項目辞典, 医歯薬出版, 東京, 2008, p. 346-349.
4. 村松英彰 (分担執筆): ここがポイント. 抗菌薬療法ガイド集, 堀井俊伸, 矢野邦夫編, 日本医学館, 東京, 2007.

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	8件 (632万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (200万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 川上純一 (代表者) 若手研究 (B) 「病態時における血液脳関門の破綻と医薬品による中枢神経系副作用の発現との関係解析」110万円 (継続).
2. 大村知広 (代表者) 奨励研究 「麻薬処方オーダーリングシステムを用いた麻薬管理に関する方法論の開発」76万円 (新規).
3. 柴田悠喜 (代表者) 奨励研究 「臨床データ検索システムを用いた医薬品の有効性と安全性に関する疫学的評価法の確立」66万円 (新規).
4. 吉田直子 (代表者) 奨励研究 「薬物トランスポーターを介した漢方薬・生薬と医薬品との相互作用の予測法の開発」76万円 (新規).
5. 鈴木時紀 (代表者) 奨励研究 「シェーグレン症候群患者におけるCYP2D6遺伝子多型に基づく投与設計法の確立」76万円 (新規).
6. 可知茂男 (代表者) 奨励研究 「臨床試験における安全性情報の分類とその評価システムの構築」76万円 (新規).
7. 鈴木吉成 (代表者) 奨励研究 「カラムスイッチング法を用いた簡便な5-フルオロウラシル定量法の開発」76万円 (新規).
8. 山本知広 (代表者) 奨励研究 「抗不整脈薬メキシレチンの用法用量設定を可能とするノモグラムの作製」76万円 (新規).

(4) 財団助成金

1. 川上純一, 内藤隆文, 宮崎太郎: MRSA感染症患者におけるリネゾリドの体内動態と抗菌作用・有害反応との関係解明. 財団法人臨床薬理研究振興財団. 平成19年度(第32回)研究奨励金, 200万円.

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	2件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	1件	15件
(6) 一般演題発表数	4件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kawakami J, Shibata Y, Kubono N, Takemura M, Suzuki H, Tsutani K: Monitoring on drug-induced hepatopathy and granulocytopenia using hospital database resources: prescription and laboratory data linkage. International Society of Pharmaco-epidemiology Midyear Symposium: What have we learnt from recent safety cases for new drug development?. The 3rd Pharmaceutical Sciences World Congress, the Board of Pharmaceutical Sciences of International Pharmaceutical Federation, Amsterdam, The Netherlands, Apr 2007.
2. Kawakami J: Clinical trials experience in Japan and other Asian countries: Clinical trials in Asia, Hospital Pharmacy Section and Industrial Pharmacy Section, World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2007, 67th International Congress of FIP (International Pharmaceutical Federation), Beijing, China, Sep 2007.

5) 一般発表

ポスター発表

1. Yoshida N, Takada T, Adachi I, Suzuki H, Kawakami J: Drug interaction associated with herbal medicine: Inhibition of breast cancer resistance protein-mediated transport by terpenoids. The 3rd Pharmaceutical Sciences World Congress, the Board of Pharmaceutical Sciences of International Pharmaceutical Federation, Amsterdam, The Netherlands, Apr 2007.
2. Naito T, Mino Y, Yamakawa K, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: CYP3A5*3 influences plasma trough concentration of mycophenolic acid in combination with tacrolimus but not cyclosporine during the maintenance period following renal transplantation. The 3rd Pharmaceutical Sciences World Congress, the Board of Pharmaceuti-

- cal Sciences of International Pharmaceutical Federation, Amsterdam, The Netherlands, Apr 2007.
3. Mino Y, Naito T, Matsushita T, Hirano K, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of *UGT2B7*2* on trough concentrations of mycophenolic acid and its acyl glucuronide in Japanese stable renal transplant recipients. 8th International ISSX (International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting. Sendai, Japan, Oct 2007.
 4. Harada K, Suzuki Y, Yamakawa K, Kawakami J, Umemura K: Reactive oxygen species with treatment of tissue-type plasminogen activator for cerebral ischemia enhanced gelatinase B in endothelial cells. The International Symposium Hamamatsu University School of Medicine COE program, Hamamatsu, Japan, Feb 2008.

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

1. 川上純一: 日本薬学会第128年会, 横浜, 2008年3月.
2. 川上純一: 薬剤師病棟業務指導者研修会 (平成19年度厚生労働科学研究費補助金. 医薬品・医療用具等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業), 浜松, 2008年2月.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一: 国際薬剤疫学会 医薬品使用実態研究部会 運営委員.
2. 川上純一: 日本病院薬剤師会 国際交流委員会 副委員長.
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会 学術第9小委員会 委員長.
4. 村松英彰: 日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師研修委員会 委員.
5. 川上純一: 日本医療薬学会 国際交流委員会 委員.
6. 川上純一: 日本医療薬学会 編集委員会 委員.
7. 川上純一: 日本医療薬学会 評議員.
8. 川上純一: 日本臨床薬理学会 評議員.
9. 川上純一: 日本薬学会東海支部 幹事.
10. 川上純一: 日本薬物動態学会 評議員.
11. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 評議員.
12. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 常任理事.
13. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 学生実習委員会 副委員長.
14. 鈴木吉成: 静岡県病院薬剤師会 理事.
15. 可知茂男: 静岡県病院薬剤師会 評議員.
16. 内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会 学術部 委員.
17. 川上純一: 学校法人東邦大学薬学部 客員講師.
18. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学薬学部 客員教授.
19. 可知茂男: 静岡県公立大学法人静岡県立大学薬学部 非常勤講師.
20. 川上純一: 独立行政法人科学技術振興機構 (JST) シーズ発掘試験査読評価委員.

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	1件

(1) 国内の英文雑誌の編集

1. 川上純一: Drug Metabolism Letters, Bentham Science Publishers, Editorial Advisory Board.

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一: J Pharm Pharmacol（2件）(England).
2. 川上純一: 医療薬学（6件）(日本).
3. 川上純一: 日病薬誌（2件）(日本).
4. 川上純一: J Pharm Biomed Anal（2件）(England).
5. 川上純一: Eur J Clin Pharmacol（1件）(Germany).

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	6件
(3) 学内共同研究	4件

(2) 国内共同研究

1. 鈴木洋史（東京大学），足立伊佐雄（富山大学）漢方薬と医薬品の薬物間相互作用－消化管吸収過程における生薬成分によるABCトランスポーターの阻害－.
2. 津谷喜一郎（東京大学），足立伊佐雄（富山大学）日本における医薬品の使用実態調査に関する薬剤疫学研究.
3. 賀川義之（静岡県立大学）腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係.
4. 賀川義之（静岡県立大学）全身性エリテマトーデス患者におけるミコフェノール酸とそのグルクロン酸抱合体の体内動態と薬効および有害反応との関係.
5. 賀川義之（静岡県立大学）フェンタニルパッチ製剤の至適投与設計法の確立を目的としたフェンタニルの体内動態の変動要因の解析.
6. 山田浩（静岡県立大学）乳癌治療における抗悪性腫瘍薬の耐性克服と安全性確立のための薬物間相互作用の機構解明.

(3) 学内共同研究

1. 菱田明（内科学第一），小川法良，下山久美子（内科学第三）全身性エリテマトーデス患者におけるミコフェノール酸とそのグルクロン酸抱合体の体内動態と薬効および有害反応との関係.
2. 牛山知己，古瀬洋，大塚篤史，永田仁夫，原田雅樹（泌尿器科）腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係.

3. 小川法良, 下山久美子 (内科学第三) シェーグレン症候群における薬物代謝酵素の遺伝子型を利用した薬剤の有効性と安全性の検討.
4. 飯嶋重雄 (感染対策室) 日本人におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌およびバンコマイシン耐性腸球菌感染症患者でのリネゾリドの生体内薬物動態と薬効および有害反応との関係.

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

11 受賞

(3) 国内での受賞

1. 高科嘉章, 内藤隆文, 宮本康敬, 見野靖晃, 賀川義之, 川上純一: 第17回日本医療薬学会年会優秀発表賞 (癌性疼痛患者におけるフェンタニルパッチのフェンタニル残存量とその体内動態の評価法の確立). 2007年9月.
2. 石代真貴子, 乾直輝, 竹内和彦, 浅井正嘉, 影山美智代, 乙部恵美子, 内田信也, 山田静雄, 川上純一, 賀川義之, 渡邊裕司: 第28回日本臨床薬理学会年会優秀演題賞 (CYP3A4活性に及ぼすスタチンの影響). 2007年11月.